



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース20号



平成23年度の催し物

今年度は、人気のものを中心に年間の催し物の回数を増やします。夏休みには、小学生向けの新しい体験教室も行います。海苔に関するものや親子で楽しめるものなどさまざまな催し物を予定しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

開催日		催し物	受付開始日 (区報掲載日)
月	日・曜		
4	17日(日)	海苔つけ体験	3月11日(金)
	23日(土)	一日まるごとのりのり体験	4月11日(月)
5	8日(日)	一日まるごとのりのり体験	4月11日(月)
	22日(日)	海苔網で袋づくり	5月11日(水)
6	19日(日)	海苔網で袋づくり	5月11日(水)
7	17日(日)	ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう	6月21日(火)
	18日(祝・月)	海の日映画上映会	当日先着
	24日(日)	浜辺の生き物探検隊	7月11日(月)
8	6日(土)	ヨシでコースターづくり	7月11日(月)
	7日(日)	タペストリーをつくろう	
	20日(土)	自由研究で海苔を調べよう	
	21日(日)	浜辺の生き物探検隊	
9	18日(日)	海苔簀づくり	8月21日(日)
10	16日(日)	海苔簀づくり	9月21日(水)
11	20日(日)	海苔の街を伝えていこう①(講座編)※1	10月21日(金)
	27日(日)	海苔つけ体験	11月11日(金)
12	4日(日)	海苔の街を伝えていこう②(まち歩き編)※2	10月21日(金)
	11日(日)	海苔つけ体験	11月11日(金)
	23日(祝・金)	一日まるごとのりのり体験	12月11日(日)
1	8日(日)	一日まるごとのりのり体験	12月11日(日)
	22日(日)	海苔つけ体験	1月11日(水)
2	12日(日)	海苔つけ体験	1月11日(水)
	26日(日)	一日まるごとのりのり体験	2月11日(土)
3	4日(日)	海苔つけ体験	2月21日(火)
	11日(日)	一日まるごとのりのり体験	2月11日(土)

※1と2の「海苔の街を伝えていこう」は、連続講座です。

内容の詳細は、大田区報やホームページをご覧ください。

申込み：受付開始日の午前9時より電話にて申込受付。土日祝日も受付けています。

問合せ先：大森海苔のふるさと館 電話：03-5471-0333





毎月の催しもの

毎月の催し物の中から、今年度新しく実施するものや注目の催し物などをご紹介します。

■海苔つけ体験&一日まるごとのりのり体験

- ・海苔つけ体験 10:00~12:00
- ・一日まるごとのりのり体験 10:00~15:00

海苔つけ体験は、生海苔を四角い枠に流し込んでほし、乾し海苔をつくる体験です。

一日まるごとのりのり体験は、昨年度開催したところリクエストが多く寄せられた人気の催し物です。



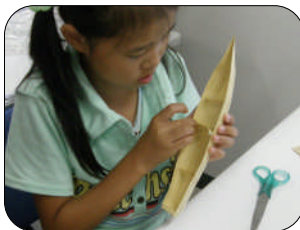
内容は、海苔つけ体験に加えて海苔生産者の体験談や海苔のクイズ、最後はほし上がった海苔を自分ではがして持ち帰ります。他にも楽しい企画があるかもしれませんよ！

■海苔網で袋づくり

海苔を育てるための海苔網を編む技術を応用して、巾着袋のような網目状の袋を編みます。

■ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう

海苔をとるためのベカブネ(伝馬船)という舟を、本物そっくりのペーパー



ラフトでつくります。

■夏休み体験学習会

今年は、夏休みの子供向けのイベントを多数開催します。キミは自由研究で海苔博士になる？それとも、潮の香りたっぷりのオリジナルのタペストリーを作ってみる？

★ヨシでコースターづくり

海苔簀編み台を使って、河原に生えているヨシのコースターを作ります。



★タペストリーをつくろう

海苔網の編み方を習って、その網に貝殻やビーズ、写真などを飾ってタペストリーを作ります。

★自由研究で海苔を調べよう

夏休みの自由研究、海苔づくりや海苔の秘密をみんなで一緒に調べましょう。目指せ海苔博士！

★浜辺の生き物探検隊

浜辺で魚や貝を観察して、海とわたしたちの関係を学びます。東京海洋大学のお兄さん、お姉さんが教えてくれる大人気の催し物です。

■海苔簀(のりす)づくり

ヨシを使って、海苔つけの際に欠かせない海苔簀を作ります。海苔つけ体験の時に自分で作った海苔簀を持ってくれば、昔通りの海苔つけ体験ができます。海苔巻きの巻き簀としても利用できる優れものです。



ミニ・イベント

お気軽にご参加いただけるミニ・イベントを開催。事前のお申込みは原則不要です。

■絵本の読み聞かせと公園散歩

自然や季節の絵本の読み聞かせをします。そのあとは目の前の公園で、お花や生き物を探しましょう。



日にち：毎月第4火曜日
(12月は20日(火))

時間：11:00~11:30

■ひまわりプロジェクト

参加者と一緒にひまわりの種をまきます。夏になったら満開のひまわりがみんなをお迎えしてくれます。

日時：4月29日(祝・金)

5月1日(日)

13:30~15:00



■季節飾りと工作遊び

季節の行事や節句に合わせて、季節の飾りつけと子ども向けの工作遊びをします。中秋の名月は、大人も一緒に夕方の時間を楽しみましょう。

★端午の節句・カブトづくり

日時：5月3日(祝・火)

5月5日(祝・木)

13:30~15:00

★七夕飾り・短冊づくり

日時：7月3日(日)

13:30~15:00

★中秋の名月・お月見コンサート

(別途要申込)

日にち：9月11日(日)

★桃の節句・おひなさまづくり

日時：2月19日(日)

13:30~15:00



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」20号

平成23年4月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 21号

子どもも一緒に！家族みんなで楽しもう！

幼児と一緒に参加できるイベント

当館では、幼児や小学校低学年のお子様も一緒に参加できるイベントを開催しています。家族みんなでお弁当持参で参加してみませんか。

★海苔つけ体験、一日まるごとのりのり体験★

生海苔から乾海苔をつくる体験ができます。完成した海苔は持ち帰ることができるので、家でも楽しめます。（日程は催事予定表をご覧ください。）

★絵本の読み聞かせと公園散歩★

季節に合わせた絵本の読み聞かせをします。その後、前の公園でお花や生き物を探します。

日時：毎月第四火曜日
11時～11時30分
対象：幼児とその保護者



★季節飾りと工作遊び★

昔の節句人形や季節の飾りなど飾ります。また、飾りと行事に合わせた工作遊びをします。

対象：どなたでも

*端午の節句「カブトをつくろう」（終了しました）

*七夕「短冊づくり」7月3日（日）

*桃の節句「おひなさまづくり」平成24年2月19日（日）
いずれも、午後1時30分～3時30分（時間内に自由にご参加できます）／参加費無料／申込不要

★ひまわりプロジェクト★

皆で協力して、館の周りにひまわりを咲かせます。

（第一回耕しの巻、第二回種まきの巻は終了）

*第三回「水まきの巻」5月から7月の間、正午から午後3時を除く開館時間

*第四回「種とりの巻」秋ころを予定



展示

●海苔の展示●

一階正面には、大きな海苔の船が展示してあります。また、二階には触ったり体験したりできるコーナーもあります。

●生き物水槽●



カニやヤドカリ、魚などを飼っています。かわいいお友達に会いに来てね。

●絵本コーナー●

季節に合わせて毎月絵本を入れ替えています。誰でも自由に読むことができます。

●昔遊び●

コマや竹トンボ、あやとりなど、昔ながらの遊び道具を用意しています。

館内の施設

■多機能トイレ■

1階の多機能トイレは、おむつ替えや授乳ができます。広いのでバギーと一緒に中に入れます。



■三階展望コーナー■

公園を一望しながら飲食ができるスペースです。人気の場所なので、交替でご利用をお願いします。

周辺の施設

◎大森ふるさとの浜辺公園◎

都内では珍しい砂浜のある公園です。海の生き物を探したり、砂で遊んだり元気なちびっ子には大人気！休日には売店がオープンするので、ソフトクリームや軽食も楽しめますよ。



◎ローラー滑り台◎

23区では最大級のローラー滑り台はいつも大人気。一度滑るとやみつきになります。

◎平和の森公園フィールドアスレチック◎

アスレチックは当館から歩いて徒歩2分。昨年リニューアルされて、楽しさも倍増です。

夏期開館時間延長のお知らせ

6月～8月は、閉館時間が午後7時になります。

Welcome to Omori Nori Museum!!

大森海苔のふるさと館には数多くの外国人の方々を訪れます。また今年4月より大森海苔のふるさと館では日本語のリーフレットに加えて外国語(3ヶ国語)のリーフレットを設置することとなりました。各言語は次のとおりです。①英語 ②中国語 ③韓国語 です。

毎年夏になると大田区の友好都市であるアメリカのセーラム市から来日する交換学生が来館し日米の友好親善を行なっています。これまでに韓国、台湾、イタリアなどの団体見学の方々やイギリス、フランス、アイルランド、アメリカ、カナダ、エジプト、オーストラリアなど個人の見学者も多く見受けられます。



“Nori”は、おいしくてヘルシーな日本食ブームのひとつとして世界に広まり、“Sushi”や“Miso Soup”など外国人の方々が祖国でも“Nori”を食べる機会が増えて来ていることも大きな要因のひとつとと考えられます。

日本を代表する味“Nori”が、ここ大森から全国に世界に広まった事実を少しでも多くの外国人の方々にも感じてもらい、心のどこかに“Nori”や“Omori Nori Museum”について思い出していただけると大変うれしく思います。(高橋)

海苔のふるさと館への恩返しとして・・・

— 元船大工の小島延喜氏より荷足船をご寄贈いただきました —

この度、5月1日にご寄贈いただきました模型船「荷足船」は、当館1階展示室に展示してある海苔船「伊藤丸」を昭和33年に造船した小島延喜氏により、2年半の歳月をかけて製作されました。

小島延喜氏より「荷足船」のお話を伺いました。

『「荷足船」(注1)は羽田の砂利船として往時100艘ぐらいあり、幅3メートル程もあり、明治、大正、昭和のはじめ頃まで使われていました。特に大正12年、関東大震災の復興の際に東京から横浜間で相当活躍した船で、この大きな船では川を遡って行くことはできませんでしたから、平たい川舟に荷を積んで「荷足船」に荷を移し替えて東京から横浜間の港に通いました。港から揚げた荷は当時、クルマがなかったので馬や牛で運びました。戦後までは結構残っていましたが、砂利や砂を採るにしたがい、次第に川底が深くなり砂利や砂が採れなくなり「荷足船」もその姿を消すことになりました。

「船竹」(注2)として造船した2艘(伊藤丸・ちゅうべか)の船を関東で最初の和船文化財登録(注3)をしていただいた恩返しとして、今回「海苔のふるさと館」へ和船模型の「荷足船」を新たに製作し寄

贈させていただきました。』

以上のお話を小島延喜氏より直接伺い、大変心温まる和船模型「荷足船」をご寄贈いただきました。是非、多くの皆様にご覧頂きたいと思います。

(高橋)

※(注1) 荷足船：多摩川河口の羽田を拠点としていた回漕船です。江戸時代には多摩川を筏で下ってきた材木を積み、明治時代には多摩川の砂利や砂を東京・横浜方面へ運搬しました。この「荷足船」が「海苔船」の前身となります。

(注2) 船竹：小島延喜氏のご兄弟とお父様が営んでいた船大工の屋号。

(注3) 和船文化財登録：平成11年、国の重要有形民俗文化財「大森及び周辺地域の海苔生産用具」として2艘の船が追加登録されました。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」21号

平成23年6月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 22号

企画展 大田の船模型展－海苔船の誕生－

船模型で紹介する海苔船の成立 海苔船は荷足船と打瀬船から生まれた

平成23年6月21日(火)～10月16日(日)

この度、企画展『大田の船模型展－海苔船の誕生－』で紹介致します船模型は「大田区立郷土博物館」の収蔵品と「大森海苔のふるさと館」の常設展示ならびに収蔵品、合わせて7点の船模型を2階展示室で紹介しています。

「海苔船」は、海苔漁場の拡大に伴い、より遠くにある沖合いの漁場に向かうため、海苔採りで使われていたベカ舟数隻と動力(エンジン)を積載した船のことです。

また、はじめから「海苔船」という動力船そのものが存在したのではなく、往時、東京湾内や多摩川河口付近で使われていた大型帆船である「荷足船(にたりぶね)」や「打瀬船(うたせぶね)」といった大型の中古船を流用し改良されたものが、「海苔船」として誕生しました。

「大森海苔のふるさと館」の1階展示室には、特に初めて当館に足を運ばれる方には強いインパクトを与える展示品があります。それが今回、企画展の「海苔船」模型のモデルとなった実際の「海苔船・伊藤丸」です。全長は13メートルにもなり、往時、実際に使われていた実物の船です。みなさんはその迫力に圧倒されるはずです。

さらに「海苔船・伊藤丸」の上には実際に使われ



ていた1艘のベカ舟とその手前には平成8年に復元された中ベカ(ちゅうべか)も展示されています。

現在、「大森海苔のふるさと館」の目の前に広がる「大森ふるさとの浜辺公園(略称:ふるはま)」の海上には、往時、数多くの木造船が行き来し、海苔採り作業には決して欠かすことのできない船だったからです。

今回の企画展では「海苔船」の成立や時代背景などを写真パネルやキャプションなどにまとめ、限りなく忠実に復元された船模型を使い立体的な展示を行っています。

元船大工の方や元海苔漁業者の方のご協力の元、船模型の展示を行なうことができました。さらに前回の『ニュース21号』でもご紹介致しました小島延喜氏よりご寄贈頂いた「荷足船」も展示させていただき、さらに迫力ある展示となりました。

少しでも多くの方々に「海苔船」について興味を持って頂けるよう展示方法も工夫し、わかりやすく楽しんで「海苔船」の歴史を学んでいただける貴重な機会を持ちました。

是非、この夏休みの機会にも多くの方々にご来館いただき、往時の海苔漁業について少しでも考えていただけるきっかけになればと思います。(高橋)

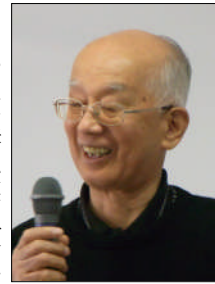


大森の 海苔生産 の思い出

当館の催し物では、元海苔生産者の方々にご指導、ご協力を戴いています。今回、その中のお一人、長谷川雅男氏より、当時の思い出を書きとめた小冊子をお借りしました。その一部を掲載させていただきます。

そろそろ丸

長谷川雅男 (仲川三部)



「そろそろ丸」それは、私が若い頃、家業として海苔製造をしていた時に使っていた、我が家の船のニックネームです。本来は東京都に登録した正式の名前がある。大森漁業組合で海苔製造をしていた仲間の中で船足が一番遅い船だったので、父と私は、ふたりで自分の船を、そろそろ走る「そろそろ丸」と呼んでいた。

東京湾の沿岸漁業とはいえ、海苔の最盛期である冬の海は北西の季節風が強く吹き荒れる。全長八メートル、幅二メートルそここの船体に五馬力のエンジンを搭載した老朽船。何故、そのような老朽船で、ひとつ間違えれば生命にかかわる、荒れる冬の海に行っていたか。

当時、昭和三十五年前後の東京湾の沿岸漁業は大きな転換期を迎えていた。東京オリンピック開催のため、羽田空港への湾岸道路整備、その上、工業の発展による沿岸の海水汚染で廃業寸前であった。というのも汚染がもとで、年毎に不作が大きくなり、借金がかさむばかりだったのである。そんなわけで、古い船を手入れし、エンジンを整備して大事に使わざるを得なかった。

冬の海での操業は東京湾とはいえ大変厳しいものだった。ひとつ荒れだすと二メートル以上の波が立ち、私の船のような小さい船は木の葉のように弄ばれてしまう。そこで、私達海で働く者は天気予報、特に風向きに注意し少し雲行きが悪くなると、すぐ操業を中止して岸に向かって逃げるのである。

まず、海苔を採る一人乗りのテンマ船を親船に引き上げる、そして、船の揺れにより動かないように、しっかりと固定してから走り出す。船で怖い



テンマ舟(ベカブネ)で海苔刈り
昭和38年1月 田中守男氏撮影
大田区立郷土博物館蔵

は、荷崩れと、波が船の中に飛込み船底に溜まり、船のバランスを崩すことである。そこで、常に海水をかい出しながら、船を進めなければならぬ。小さい船では、波の谷間にいった時は、前後左右海水に囲まれ水以外何も見えなくなり、そこを脱出するため海水を登るようになる。すると、エンジンに負担が大きくなるため回転がぐんと落ちる。そこでエンジンを止めてしまったら大変、船はバランスを失い転覆してしまう、急いでエンジンの回転を上げてやる。次に船が波頭の上になる、今度はスクリュウが浮いてしまい負荷が軽くなるので、物凄い勢いで回転し船が壊れるのではないかとと思うほど振動する。これを繰返ししながら、なるべく波に逆らわないように船を進める。このように、天候の急変のため操業の途中に急拠引き上げることが、毎シーズン二度や三度は必ずあった。

私が父と一緒に海に行くようになったのは昭和三十年頃からで、この頃になると、東京湾の水も、かなり汚染されてきたので、海苔養殖の場所も沖へ沖へと移動していった。

養殖の場所が遠くなった事により、それまでは一人乗りのテンマ船で、「ろ」や「かい」を使い川から漕いでいったが、テンマ船では不可能ということで、エンジンの付いた親船にテンマ船を乗せて現場まで行くようになった。おかげで、ろやかいで船を漕ぐ腕前が落ちた。親船で沖の養殖場に着くと、テンマ船を下して乗り移る。しかし、漕ぐのは十メートルぐらいになった。それでも慣れるまでの私は、少し風が出ただけで、なかなか親船にたどり着けなく、私も初めの頃は、「風が出たから帰るぞ」と、父にいわれ、急いで仕事をかたづけ、親船に向かって船を漕ぐが、風にあおられ思うように船が進まず、焦れば焦るほど違う方向に船が行ってしまった。真冬というのに汗をびっしょり掻いた、一方、父はと見ると軽くすいすい漕いで、親船に着いてしまう。そして私の方を見てたまりかねてロープを投げてくれる。私はロープにつかまりやっと親船にたどり着いた。私も早く父のように船を漕ぐようにならなければと思い一生懸命努力した。

船というとは、冬、海、季節風、その中をゆつくり走る「そろそろ丸」、そして、風にあおられ流されそうなテンマ船と、若い頃の、辛く、厳しかった思い出が次々と、浮かびそして、消えていく。

特定非営利活動法人 海苔の ふるさと会会報「大森海苔の ふるさと館 ニュース」22号

平成23年8月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 23号

アサクサノリ生育観察事業

大森ふるさとの浜辺公園
における海苔生育実験

この事業は、地元住民による「アサクサノリ生育実行委員会」が実施しています。今回は、海で育てる冬に向けて、今年の夏から秋に行った準備作業を紹介します。

1、アク抜き作業(8月11日)

竹には油分があり、そのまま竹ヒビとして使うと海苔が付きにくいので竹を束ねて1ヶ月程度、海中に沈め油分を抜きます。この作業を「アク抜き作業」といいます。



作業は潮の時間帯を読みながら迅速かつ的確に行われます。往時を彷彿させる作業の手際の良さに目を見張るものがありました。

2、せっころ落とし(8月11日)



今年4月に使用した竹ヒビを再利用するため付着している「せっころ」(フジツボ類)



を「移植ゴテ」や「せっころ落とし」という専用の道具を使い、みなさんは慣れた手つきで「せっころ」(フジツボ類)を落としていきます。

右上の写真は、元海苔生産者から指導を受ける当館のサポーター「はまどの会」のメンバー。

3、竹ヒビ引き揚げ作業(9月5日)

アク抜き作業を終えるため、竹ヒビの引き揚げ作業をおこないました。

竹ヒビの材料となる竹の枝に付着した通称“ヌタ”と呼ばれるヘドロを海水で洗い落としている作業の様子です。



4、ヒビごさえ作業(9月5日)

竹ヒビをつくる作業です。竹ヒビの下にアゴと呼ばれる“かえし”を作り、竹ヒビが簡単に海底から抜けなくするための打合せ中の一コマ。



やり方は家々によって千差万別。元海苔生産者の黙々と仕事に向かうその姿は大変感銘を受ける瞬間です。元海苔生産者の姿を見てい

ると微笑ましくも往時のご苦労が偲ばれます。

5、ノリの育苗(6月13日~10月中旬ごろまでの予定)

「大森 海苔のふるさと館」ではノリの赤ちゃんを育てています。ノリは冬に収穫し、夏から秋にかけてのこの時期には柔らかい貝殻であるカキ殻の中で生活をします。写真の黒い部分がノリの赤ちゃんです。10月中旬(予定)までこのカキガラの展示を行っていますのでぜひ、ノリの赤ちゃんをご見学ください。(高橋)



どっち
に参加
する?

海苔つけ体験

or

一日まるごとのりのり体験

毎年大人気の海苔つけ体験に、今年から新しい催し物が加わりました。その名も「一日まるごとのりのり体験」です。それぞれの違いと楽しみ方をご紹介します。

海苔つけ体験 10時～12時

刻んだ生海苔を四角い枠に流し込み、乾海苔を作る体験です。地元の元海苔生産者が、昔の海苔づくりのお話をしながら、手ほどきしてくれます。

乾し上がった海苔は、翌日以降取りに来ていただくか、郵送でお届けします。

半日、手軽に体験したい方にお勧めです。

▼スケジュール▼

日時	申込日
11月27日(日)	11月11日(金)
12月11日(日)	
1月22日(日)	1月11日(水)
2月12日(日)	
3月4日(日)	2月21日(火)

一日まるごとのりのり体験 10時～15時

午前中は、海苔つけ体験を行います。

午後は、海苔網や海苔簀を作る体験、クイズ、海苔生産者のお話、海苔づくりのスライドや映像など、その回に応じて異なる内容を予定しています。

最後は、乾し上がった海苔を自分ではがして持って帰れます(天候により乾かない場合もあります)。一日中、海苔のことを楽しみたい方にお勧めです。

▼スケジュール▼

日時	申込日
12月23日(祝・金)	12月11日(日)
1月8日(日)	
2月26日(日)	2月11日(土)
3月11日(日)	

思い出の旧平和島温泉

平和島は戦前に埋め立てられた小島でした。昭和29年に競艇場、昭和32年に平和島温泉がオープンするなど平和島はレジャーランドとして開発され、東京近郊から多くの人々が娯楽に訪れるようになりました。



その一人である「はまどの会」の渡辺豊治氏から、昭和30年代前半の平和島温泉の絵葉書を寄贈いただきました。当時は品川区在住で、親せきが集まる機会があると平和島温泉へ行き、皆で宴会をした思い出の場所だそうです。「島に渡る赤い橋が印象的でね。当時は海苔もまだ盛んでした」と、子どもの頃を懐かしそうに語ってくれました。

昭和30年代は生活水準が回復し、娯楽が大衆化した時代でした。温泉、遊園地、プールなど娯楽施設



が集まった平和島は、戦後の娯楽の象徴であり、多くの人々の思い出の詰まった場所と言えるでしょう。(まこ)

海苔生産の再起へ

～東日本大震災の被災を乗り越えて～

3月11日、東日本大震災による津波が太平洋沿岸を襲いました。宮城県は全国約5位の海苔生産地。津波は船、海苔網、乾燥機などを呑込みました。

あれから半年。宮城は種つけの時期を迎えました。

新聞記事によると、宮城県石巻湾支所では、9月5日から陸上採苗が始まったそうです。今年は共同体で生産にあたり、規模は昨年の約3分の1とのこと。順調にいけば10月中旬ごろ収穫が始まります。

また、「献上ノリ」で知られる東松島市矢本では、投資の少ないワカメを養殖し、その収入を元に来年度以降海苔養殖の復活を目指すそうです。また、塩釜市では「うらと海の子一口オーナー制度」を立ちあげ、自らの力による復興を目指しています。

宮城の海苔養殖は、江戸時代に大森が技術を伝えたことに始まります。

そして現在、当館の海苔つけ体験でも宮城県産を使用しています。

今後被災地の海苔生産の復興を応援したいと思います。(まこ)



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」23号

平成23年10月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 24号



新年ご挨拶

平林 義正

新年あけましておめでとうございす。
 昨年は東日本大震災により「海苔つけ体験
 学習」の海苔を心配していたところ、宮城県
 産が十一月の学習に使用でき、産地の復興が
 うかがわれ共に喜ばしいことでありました。
 各種行事の中で夏休み子ども向け講座、簀
 編み網編みを応用した調べ学習の参考になる、
 講座は大変好評を頂きました。一月には大森
 海苔漁業者の元組合員の名板が作業室にか、
 げられ、本場大森海苔を培って来た人々を後
 世に伝えることが出来喜びに堪えません。
 海苔のふるさと館は五年目を迎えます。南
 館以来来館者は三十万人を迎え平素館内は賑
 わっております。常に心温まる接待や業務に
 携わっていただける館職員に感謝致します。
 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 理事長)

大森海苔漁業者の
名板



元船大工の小島延喜氏寄贈の荷足船



夏の子ども向け体験学習会



新春のごあいさつ

当館の活動にご協力いただいている方々から、新年のごあいさつをいただきました。



海苔業が終わって48年
が過ぎ、まさかふるはまで海苔
とりが出来るとは思っていなかった。
昔ながらのやり方で親子の皆さんに
指導し、本場大森海苔生産業の昔話を
しながら、今年も良い海苔が取れ1人
でも多くの方に体験してもらいたい
と思う。（海苔のふるさと館協
力者 中村博）

平成23年度のはまどの
会の特別研修会が8回に渡って開
催されました。地域の海苔の歴史と
海苔の1年と1日の作業で実践を教えてい
ただき、また研修を東京海洋大学の学生
さんと共に勉強させていただきました。
そして、修了証もいただきました。来年
は展示ガイドを目指していっそうがん
ばりたいと思います。

（はまどの会 三城友子）



去年3回目のお月見
コンサート、創作詩に詩吟
とチェロのセッション、会員独自
の企画と演出で、次に弦楽四重奏が
心に染みいるような演奏。皆様の好
評を博しました。海と海苔とふるさと
（浜辺）をテーマに、今年もまた斬
新な企画で!!お月様、今年も中秋
のその日、顔を見せてくださ
いね！（NPO会員 岡崎
博）

東日本大震災と海苔生産

東日本大震災で被害を受けられた方々にはお見舞いを申し上げますと共に、復興へ向けた新たな1年となりますようお祈り申し上げます。

被害の大きかった宮城県は、海苔生産全国第5位（平成22年度）です。甚大な被害を受けたものの、約3/1の生産者が協業によって生産を再開し、復興へ向けた明るいニュースとなりました。

当館の海苔つけ体験でも、宮城県石巻産の生海苔を使用しています。現在、宮城県を始め、いずれの生産地の海苔からも放射性物質の暫定基準値を超える数値は検出されていません。安全に対する情報もお伝えしておりますので、ぜひ、体験にご参加いただきたいと願っております。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

**特定非営利活動法人 海苔の
ふるさと会会報「大森海苔の
ふるさと館 ニュース」24号**

平成24年1月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法
人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の
森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 25号

アサクサノリ生育観察事業

大森ふるさとの浜辺公園
における海苔生育実験

この事業は、地元住民による「アサクサノリ生育観察実行委員会」が実施しています。海苔のシーズンである冬の作業と海苔の生育について紹介します。

1、糸状体の培養(6月中旬～10月中旬)

昨年に引き続き、海苔の種である胞子を作る糸状体をカキガラで培養する作業に再挑戦しました。汲んで来た海水には多くの塩素成分や他の藻類、菌類等も含まれており、糸状体を培養することの難しさも学びました。そこで朝晩、欠かさず水槽内の海水温度の管理をし、塩素成分や他の藻類、菌類を限りなく排除させるための海水作りにも取り組みました。

2、竹ヒビのヒビ建てと支柱建て(10月26日)

昨秋、往時にない実際に竹ヒビを建てる為に使っていた振り棒と呼ばれる道具を使って浜辺近くの海に竹ヒビを建てました。その枝にカキガラの入った袋を結んで海底に沈め、海苔の種付け作業も行ないました。



今回、中富小学校より振り棒をお借りし、児童には作業の見学と振り棒の体験をして貰いました。

3、竹ヒビの海苔の生育(12月21日)

その二ヶ月後、浜辺に建てている竹ヒビに海苔が生長していることを確認しました。昨年に続き二度目の大きな成果です。現在、当館1階展示室には水槽を設置し、多くの来館者にふるさとの



浜辺公園で採れたアサクサノリを間近で観察できるようにしています。

4、陸上採描(11月1日)

現在の海苔養殖では一般的に行われている種付け方法で、この事業では初めての試みです。予め塩ビパイプで組んだ骨組みにブルーシートを被せた簡易プールを作り、そこに海水とカキガラを入れ海苔網



を浸すと海苔の胞子が付着します。さらに海苔網を海水から出したり浸したりを繰り返すことでその確率が高まり、強い海苔芽が海苔網に付着します。

5、網張り(12月21日～2月末)

今年は佐賀県で種付けされた海苔網と当館で陸上採描した海苔網を張り出しました。現在、海苔網を張る場所には限りがあるため、1枚ずつ張ると最大で3枚・3か所までしか張れません。しかし海苔網を複数枚重ねて張る「重ね張り」の方法の場合、1か所に複数枚の海苔網を重ねて張ることが可能となるため結果、収穫に結びつく可能性が高まります。



6、海苔とり(12月27日～3月上旬)

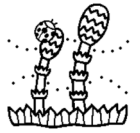
いよいよ海苔の収穫です。元海苔生産者の手際の良さに驚くのと同時に冬の凍てつく海でも素手で海苔を黙々と採るその姿勢に往時を彷彿させる光景が甦ります。既に半世紀近い時間が経つ光景を目の当たりにすると正直言葉を失います。

今年も往時の海苔作業の様子を間近で見る貴重な機会となりました。(高橋)





館周辺の花さんぽ



大森 海苔のふるさと館が大森ふるさとの浜辺公園と平和の森公園の間にあることから、館周辺では四季折々、さまざまな花を楽しむことができます。今回は冬から春にかけての花を紹介します。

★冬に咲くロウバイ

1月、一面茶色でどこかさみしげな公園を浜から館に向かって歩いてくると黄色い花をつけた木があり、近付くと甘い香りがします。



る長野県東御市から贈られたもので、友好のシンボルとして可憐な花で私たちを楽しませてくれます。



鳥居桜

★草はらの小さな花たち

頭上ばかりでなく足元にも目を向けてみると、意外にもたくさんのお花が目に入ってきます。オオイヌノフグリの青い小さな花は、まるで誰かが散りばめたかのように広がっています。他にもヒメオドリコソウやホトケノザなど、一般的には雑草とひとまとめに呼ばれてしまう草ですが、かわいらしい花をつけています。

これからの時期、外を歩くのが気持ちの良い季節です。皆さん花を楽しみに足を運んでみませんか。
(小山)

★梅と桜の共演

梅一輪一輪ほどの暖かさ(服部嵐雪)



紅梅

万葉の昔から日本人に愛されて止まない梅もまた、寒い中ぽつぽつと花を咲かせていきます。公園では紅白の梅を楽しむことができます。続いて、咲き始めるのが桜です。ふるさと館周辺には河津桜、鳥居桜、染井吉野、大島桜、山桜といくつものサクラがあり、2月から4月にかけての長い期間楽しむことができます。ふるさと館の前には河津桜と鳥居桜があります。2年前ガールスカウトの皆さんによって植樹された河津桜は、1955年に静岡県河津町で発見された種類で、桜の中ではいち早く咲きます。鳥居桜の木は大田区の友好都市であ



ヒメオドリコソウ



ホトケノザ



ハハコグサ



ツクシ

来館者が30万人を超えました!!

平成24年2月2日、20年4月の開館以来の来館者数が30万人を超えました。皆様のご紹介やご来館のおかげとお礼申し上げます。

大森の海苔の歴史やふるさと館のことがテレビやラジオ、新聞にしばしば取り上げられることもあり、近隣住民の方はもとより東京都内、神奈川、埼玉などからも多数の方々を訪れてくださっています。また、“海苔のふるさと”の歴史を伝える施設として全国の海苔に関わる方々にも知られており、羽田空港から立ち寄る方も増えています。

これからも、海苔養殖の歴史を伝えていくとともに公園やスポーツ施設に囲まれた立地を活かして、多くの方に来館していただける魅力ある施設にしていきたいと思ひます。(小山)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」25号

平成24年3月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347